

令和８年度第１回三重県脱炭素社会推進会議概要

- １ 開催日時：令和８年９月２９日（火）１７：１０～１７：１５
- ２ 開催場所：プレゼンテーションルーム
- ３ 議事概要：以下のとおり（●議題提出部局説明・回答、☆意見・質問）

● 佐藤環境共生局長

今回の会議では、直近の確定値である令和５年度の県域における温室効果ガス排出量実績、令和７年度の県の事務事業における排出量実績などを共有し、今後の着実な取組につなげる。

議題１ 三重県域における温室効果ガス排出状況について

● 池田地球温暖化対策課長（資料１に基づき説明）

- ・ ２０２３年度の排出量は、２０１３年度比で１３．１％減となっていますが近年は横ばい傾向にある。
- ・ ２０３０年度に向けて実効性を高め、併せて、中長期を見据えた内容にするため、本年度、総合計画の改定を予定している。

議題２ 事務事業における温室効果ガス排出状況及び取組状況について

● 池田地球温暖化対策課長（資料２に基づき説明）

（１）温室効果ガス排出量の現状

- ・ ２０１３年度比で５２％の削減を目指しているところ、直近、２０２５年度比で２８．４％減少している。
- ・ 教育委員会などで積極的に環境配慮契約に取り組んでいること、環境生活部でＰＰＡ（電力購入契約）の効果が現れている。

（２）削減取組の現状

- ・ ＬＥＤ照明化や公用車の電動車化は順調だが、「太陽光発電施設の導

入」と「電気の排出係数の改善」が課題。

(3) 太陽光発電の導入

- ・ 庁内連絡調整会議の設置などP P Aモデルの横展開を図るとともに、令和9年度には、部局を跨いだP P A一括導入を行う予定。
- ・ 令和8年度、鈴鹿庁舎でペロブスカイト太陽電池を設置する予定。

(4) 電気の排出係数の改善

- ・ 令和7年度に県有施設で調達した電気の排出係数（平均値）は0.356と大幅に低下した。環境配慮契約を進めている効果が出てきている。
- ・ 今後は、環境配慮契約の手法として、環境価値を評価する総合評価落札方式の導入検討を進める。具体的には勉強会を立ち上げ、モデル事業の実施を検討する。

(5) 部局別行動計画の策定検討

- ・ 事務事業における削減実効性を高めるため、2030年度までの部局別行動計画の策定を検討する。

☆質疑なし

●佐藤環境共生局長

最後に知事から一言お願いする。

☆一見知事

- ・ 各部局でこれまで取り組んでいただいております、成果が出ている。
- ・ 地球温暖化が原因と思われる異常気象や災害が増えていることを考えると、引き続き取り組んでいく必要がある。
- ・ そのような中で、ペロブスカイト太陽電池は、三重県出身の若宮京都大学教授も研究されている。今後、若宮教授が関与するものが量産化されるようになれば、三重県としても積極的に取り入れて発電量を増やしていくことを検討していただきたい。